

元治元年六月十七日より元治元年六月廿日まで

P8311157 right

縷述す、黄窪<sup>2</sup>へ(和三色二斤、茶壺斤) 牛籠(込)へ(和三色式斤)暑中の使遣す、藤山稽古に来る、例の役あり

十八日亥 朝震陰漸く晴

牛姑来り、油醬揚(一重)桃実花豆旧□へ霜糠(一袋)暑見舞品を贈らる、鉦児微□あり豎道玄方へ診察に

遣し薬剂を乞う、出 殿昨日大久保(豊)、菊池(豫)、杉浦(兵)、星野(金)、本日□防両閣老因縫両

参政寺社奉行松平撰津守御役 御免今日より川越侯登宮有し、水戸殿には御改事向御相談共断り

御隠居の宮に有し由、道順も此程久敷登宮無し、是又退居の沙汰也、竹本(甲州)へ此程中より退職願の義

に付、縷々申聞し趣も有しにて本日の景況報告せり、五郎生暑見舞に来り、菓子一折半切七束を贈

らる蕎麦を設く、甲州より御役御免願書進達いたし呉様為持越す、金港出張藤左衛門より匣ミニストルへ可渡

焼失手当金受取方の義、達言いたし候、猶御用状を以申来る  
十九日子 薄晴

P8311157 left

保三宿寺詰明けより来り、桃実一籠持来、内山(和三色二斤入一折)、桑野(串海鼠三桁酒三升券)暑見舞品遣す、鈴木栄蔵なるもの

中小姓見目に来る、出 殿甲州退職願書河閣段へ、御直進達、先つ御□置し旨也、昨本、金川藤左より

表状の趣建言す、外に身分上に付、御懇談筋有し、甲州方へ右の一条相達し遣す、黄窪よりてい差越し

兼て頼置し齊地製の鼈甲簪二□届く(合て十八円也)広沢(悦)帰府吹聴として来り□を木ぬり硯箱一を

贈り遣し旨、暑見舞いに来り、菓子一折、鯉一重を贈らる、山角某の謝意を含めり、酒肴を設け花豆等を遣す、善福寺詰より同寺濱留士官の内帰港せし旨等の義申来る、金港出□

藤左より匣ミニストル引合

筋、並瑞西(一)コンシユル出府差留し趣等の義、御用状届く、今朝の栄蔵身分先つ(青山金左衛門)へ問合に遣す、返書来る

廿日丑 陰漸薄

宅調、薙刀師情田へ暑見舞(味醂二升券、鶏卵一折)為持遣す、平山(謙)より雁書届く平安也  
土屋豊州より関口

飛騨道中筋武佐宿、並寺山宿両所於みて租界(一)の聞へ有し義に付、相談申来る、右返書へ

昨来の宿寺詰

\*1: 瑞西はスイス

\*2: 租界は外国人居留地

( )内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れがある、虫食いにより文字が無い等です。